特別活動学習指導研究委員会

１　研究テーマ

子ども一人ひとりの思いや考えを生かし、考えを深められる集団の育成

２　テーマ設定の理由

本委員会では、「子ども一人ひとりの思いや考えを生かし、考えを深められる集団の育成」というテーマを設定した。

新学習指導要領が実施となり、各教科で習得・活用された学びを実践化する特性もある特別活動は、各教科等に横断的に機能する存在であるといえる。また、新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」を実体験する場でもある。しかしながら、特別活動は、各教師の活動や取組みの質、評価の在り方等が十分に検討・吟味されることなく、活動だけが単純に継続されていくことも少なくない。そこで、「主体的…題材の必要感、活動における自己有用感の高まり」「対話的…合意形成の工夫」「深い学び…集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる集団及び自己の問題の解決への活用」の観点を大事にしながら実践を振り返り, 新学習指導要領の実施に際してより良い実践の在り方について追究していく必要があると考える。

３　研究の経過

第１回　５月１３日（木）　顔合わせ　研究テーマと推進計画立案
第２回　６月１１日（金）　教育課程研究協議会事前授業参観（東部中学校）
第３回　６月２４日（木）　実践事例発表①
第４回　７月２７日（火）　実践事例発表②教育課程研究協議会午後の部について
第５回　９月　８日（水）　オンラインにて教育課程研究協議会参加（東部中学校）
第６回　１１月２９日（月）　研究のまとめ今年度の反省
（本年度の教育課程午後の部の発表は中止となった。）

４　研究の内容

新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、本年度導入された一人一台のＩＣＴ機器を活用した話合い活動のあり方について研究を進めてきた。集団及び自己の問題の解決方法を考える話合い活動において、より多くの子ども達が考えを出し合い、互いの良さを認め合いながら合意形成を図るために、ＩＣＴ機器を活用することができるのではないかと考えた。そこで、委員がＩＣＴ機器のさまざまな機能を活用して授業実践を行い、その実践を「主体的…題材の必要感、活動における自己有用感の高まり」「対話的…合意形成の工夫」「深い学び…集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる集団及び自己の問題の解決への活用」の観点を大事にしながら振り返り、よりよい方法を考えてきた。

以下、委員による発表を紹介する。

事例 1

『学級会年間計画の作成～AI テキストマイニングを使って～』

上田市立北小学校　立花　潤

（1）はじめに

〇AI テキストマイニングとは？

→テキストマイニングとは、「自然言語処理」と呼ばれる解析手法を用いて、有益な情報を抽出すること。

→市場動向や消費者意識など、企業にとって有益な情報が含まれており、多くの企業が経営上役立てている。

〇使用サイト

User Local　AI テキストマイニング（一部有料）　　https://textmining.userlocal.jp/

〇使用方法

①範囲を選択　②コピーしたものを張り付ける　③テキストマイニングボタンを押す

（2）授業の簡単な内容

〇以下のような場面で活用しました。

４年２組　特別活動における活用場面

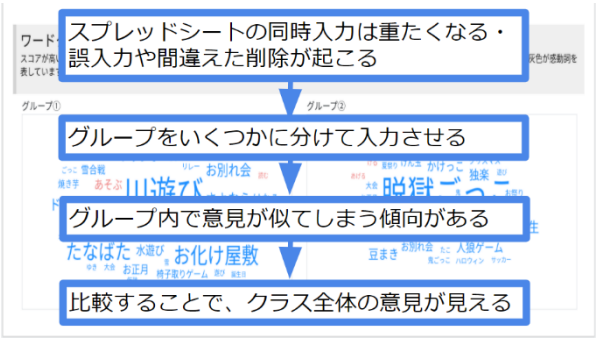
〇学級会年間計画の視覚化（スプレッドシート）

〇１学期振り返り記述覧の視覚化（フォーム）

〇クラスのいいところ探しの視覚化（フォーム）

年間計画作成の際にテキストマイニングをした結果

〇グループごと比較も行いました。



2つの文書に出現する単語を、それぞれどちらの文書に偏って出現しているかでグループ分けし、表にしています。グループ中の単語は出現頻度が多い順に並ぶ傾向があります。

グループ①にだけ出現	グループ①によく出る	両方によく出る	グループ②によく出る	グループ②にだけ出現
あそぶ　お化け屋敷 お花見　さよなら 読む　お菓子　お餅 ごっこ　さい たなばた　つき はなみ　ゆき サンタさん　スポーツ トーナメント ドッジボール ドッチボール　リレー 七夕　仮装　全部 夏休み　大根　戦い 抜き　投業　本 椅子取りゲーム 水遊び	お正月　遊び	クリスマス ハロウィン　大会 お別れ会　音合戦	川遊び	ける　またぐ　寝る 脱獄ごっこ　あげる お祭り　人狼　5年生 かけっこ　人狼ゲーム 豆まき

（3）成果と課題

AIテキストマイニングの長所

〇瞬時に行えるので、視覚的な印象が強くなる。

〇クラス全体の振り返りとして有効。

AIテキストマイニングの短所

〇外国語と違い、文節ごと区切られていないので誤字が生まれる。

その他の教科での活用

〇『「徳川家康」について知っていること』など社会科での活用。

〇道徳の事前アンケートなどでの活用。

事例２

『作品アルバムをつくろう～カメラ・google スライドを使って～　』

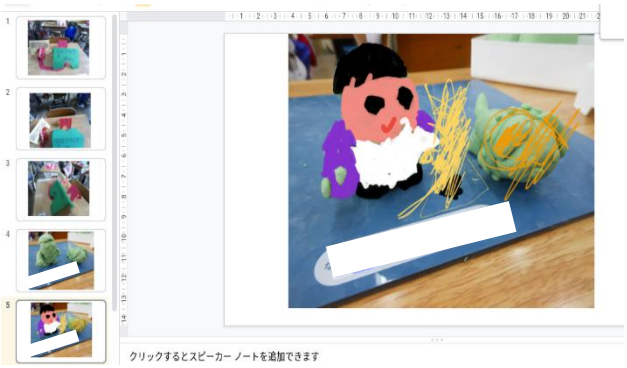
上田市立神川小学校　長崎　愛海

（１）　はじめに

神川小学校では、どの学年もクロームブックを使用した授業を行っている様子があります。そのなかで１年生は、他学年に比べ少し遅れを取りながらも、カメラ機能を使った活動を多く実践してきました。生活科の「あさがおのかんさつ」では、あさがおを撮影し、その写真を拡大して細かく観察したり、あさがおと自分の手を友だちに撮影してもらい、あさがおとの大きさ比べをしたりしました。また、「あきさがし」では、グループに分かれ身の回りの虫を撮影し、グループごとクラスのみんなにどんな虫がいたのか紹介し、秋を楽しむことができました。色々な授業でカメラ機能を使って活動してきましたが、特別活動では、学活の時間を使って、これまでの図工で作った作品をアルバムに保存し、ポートフォリオのように蓄積してきました。

（２）　授業の簡単な内容

１学期の終わりから、図工で作った立体作品を写真に撮り溜めてきました。その写真を一人ひとりが１つのスライドに貼り付け、自分の作品アルバムを作成しました。Google スライドを使い、１枚目に「さくひんアルバム」と入力した状態で、クラスルームの課題として貼り付け、それを一人ひとりが編集し、自分だけのアルバムを作りました。２学期までの作品アルバムが完成し、そのアルバムを友だちと見合いながら、自分の工夫したところを紹介したり、感想を伝え合ったりしました。



（３）　成果と課題

作品を写真に撮ることは、子どもたちにとって、自分の作品がいつでも見られること、壊れる心配がなく持ち運びでき友だちと「見て見て」がたくさんできることは、とてもうれしく感じるようでした。写真に撮ることで、自分の見てほしいところを見てもらうことができ、紹介するときも拡大したり、「ここのぎざぎざが･･･」と詳しく説明できたりするところも良かったと感じます。アルバムにしたことで、保管が難しい立体作品をまとめて掲示することができたり、いつまでも見返すことができたり、子どもたちに見やすい形で残すことができました。

イラストとひらがなが頼りの１年生にとっては、操作が難しく苦戦する様子がありました。操作の手順を説明しようにも、漢字で示されるものばかりなので、マークや読めるひらがなだけをたどって、どうにか辿り着くといった様子でした。１年生が操作できることや使える機能には限界があるので、より充実したアルバムにしていくために模索していきたいと思います。

事例３低学年のフォームを使った実践

『クラスをパワーアップさせるために～フォームを使って学級目標をふりかえろう～』

上田市立丸子中央小学校　小野澤 華奈子

（１）はじめに

本校では、今年度より一人一台のタブレット端末が整備された。どの教科でどのように利用することが有効なのか手探りの状態で、試行錯誤の１年目である。

本年度は３年生を担任している。小学校３年生にとっては、ログインやパスワードの入力など、機器操作の一つ一つに困難さが生じる。また、ローマ字を習うのも２学期になってからであるため、検索機能を使っての調べ学習や自分の考えを書くことなど、言語入力が必要な学習ツールとしての利用もなかなか難しい。

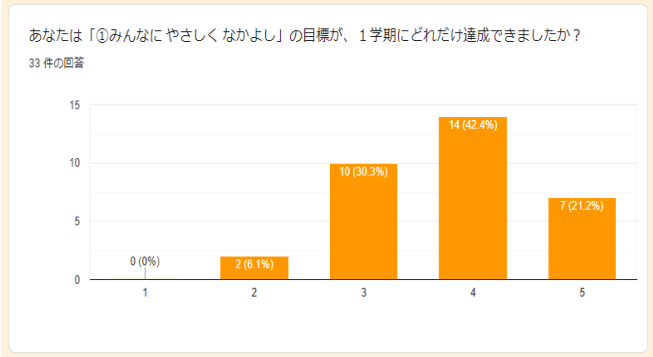
このような実態のなか、低学年にも特別活動の学級会における、グーグルフォームのアンケート機能を使った実践を紹介する。

（２）授業の内容

①フォームを使って、１学期の学級目標をふりかえろう

３年２組には、学級目標「なかま」に関わる３つの目標がある。『 ①みんな やさしく　なかよし　②元気なあいさつ　自分から　③時間をまもって　すばやく行動 』１学期に、この３つの目標が、どれだけ達成できたと思うか、ひとりひとりがフォームのアンケートに答える形をとった。

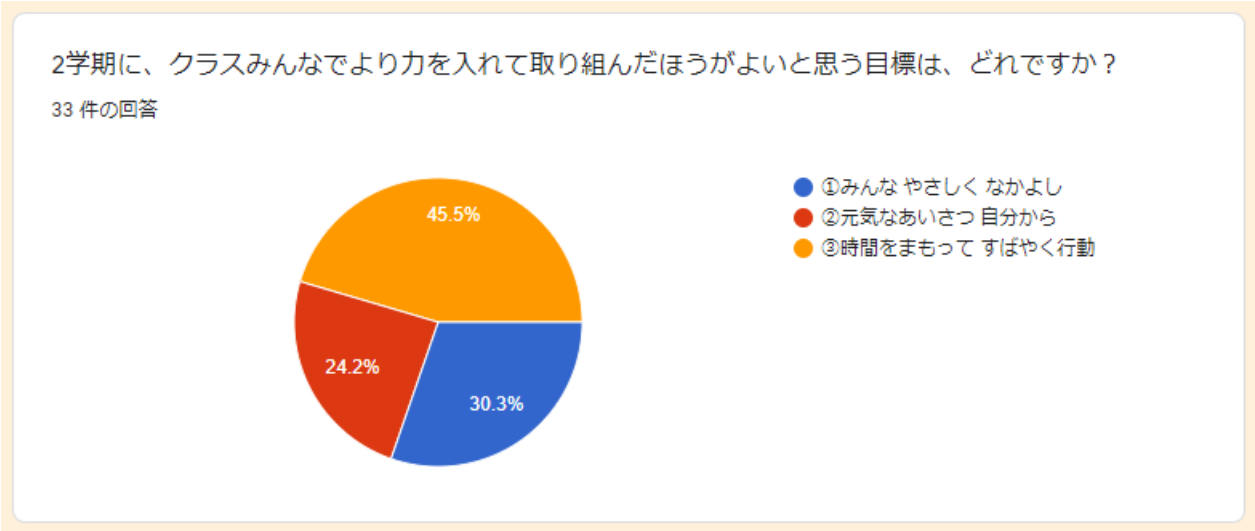
フォームは、十分できた～できなかったまでの５段階評価で、自分がこのぐらいできたと思う数字のところをタップすることで回答できる。



②みんなの回答を見てみよう

全員の入力が終わったあとで、どのような結果になったか、子どもたちに大型テレビで回答を示した。フォームのアンケート機能は、複数の回答をグラフにして提示できる。「①みんな　やさしく　なかよし」については、「全くできていないって人はいないね。」「まあまあできているっていう人が多い。」などと、グラフを見た子どもたちが答えた。「これについて、なにか意見がある人はいる？」と聞くと、「みんなで協力して〇〇ができたから、５の十分できただと思う。」「まだ、時々けんかをしている人がいるから、３ぐらいかな。」など、目標に関わるエピソードや意見がたくさん出てきた。

③２学期にみんなでがんばることは？



３つの目標について、グラフを見ながら１学期のふり返りをした後、「２学期に、クラスみんなでより力を入れて取り組んだほうがよいと思う目標」についての回答を見た。これは、円グラフで回答を見ることができるように設定した。「４５％ってことは、半分ぐらいの人が『時間をまもって』のところっていう感じだね。」と、一目で分かりやすかった。「移動教室の時に、しゃべっている人が多いから、静かにならんで、間に合うように出発したい。」「チャイムがなったら、すぐに席についた方がいいと思う。」などの意見が挙がった。

（３）成果と課題

〈成果〉・目で見て達成度が分かりやすい。
・クラス全員の意見が反映される。
・継続していくと、学期ごとでグラフを比べることもできそうだ。
・発言や意思表示が苦手な児童にとっては、アンケートに答えるだけなので参加しやすい。
・すぐに全体の傾向を表示することができるので、子どもたちが語る時間をしっかりと確保することができる。

〈課題〉・意見を比べたり広げたりすることは難しい。
・教師主導になりがちである。
・発言をしない児童にとっては、機器操作のみになってしまう。

このように、グーグルフォームでの簡単なアンケートであれば、低学年でも活用することができる。話合い活動では、会話や言葉だけで進んでいくことが多いが、表やグラフで表示することは、視覚的な支援にも有効的である。また、３年生でローマ字を学習した後であれば、ジャムボードを使って、自分の意見を書いたり、比べたりすることもできそうだと感じた。

話合い活動では、膨大な意見をまとめることに時間がかかったり、決め出すことに到達できなかったりすることがある。ICT 機器を有効的に使うことができれば、より効率よく話合いを進めることができると思う。今後も、子どもたちの実態に合わせ、どのような場面でどのような使い方が有効であるかを、探っていきたい。

事例４高学年フォームを使った実践

『1 学期をふり返り、クラスのめざす姿を話し合おう～フォームを使って～』

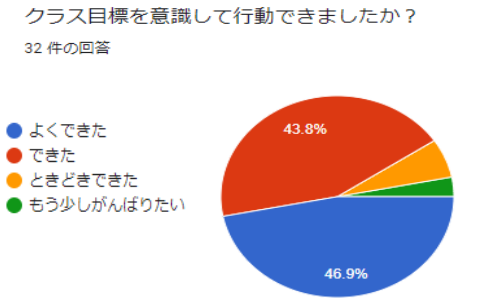
上田市立東小学校　小山　沙紀

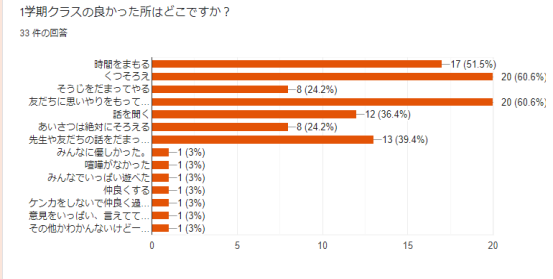
（１）はじめに

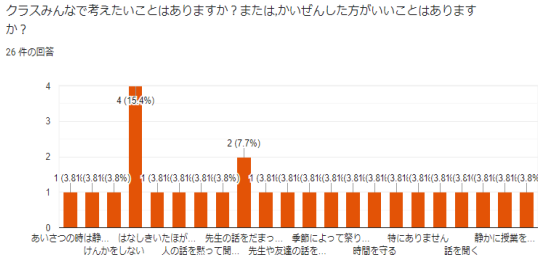
クラス替えを行い、新しい友だちとスタートした４月。学級会を開き、どんなクラスをめざしたいか、友だちと過ごす中でどんなことを大切にしていきたいか話合いを通して学級目標を考えた。初めての学級会だったが、たくさんの意見が出され活発な話合いとなった。学級長と副学級長の進行で板書された意見をもとに、共通点を見つけたり、質問したり、意見交流を通して学級目標を「思いやりを大切にするクラス」と決め出すことができた。しかし、発言が苦手な児童や自分の意見を明確に話すことが苦手な児童の意見を取り入れることが難しく、意見を出せない児童がいた。また、たくさんの意見を集約するのに時間がかかり、なかなか意見がまとまらず進行が悩む姿もみられた。

そこで、１学期の学級目標のふり返り場面では、より多くの児童の意見や考えを共有するために、フォームを使って、学級目標をどれくらい意識して取り組むことができたか把握し、２学期の話合いの議題にしたいと考えた。

＜フォームアンケートの結果＞







（２）授業の簡単な内容

まず、１学期のクラス状況を把握するために、フォームを使ったアンケートを行った。学級目標を意識して行動できたか、クラスの良さやみんなで考えたいことはあるかなどの質問に回答することで、クラス全員の考えをつかむことができた。また、瞬時に集計ができるため、子ども達もクラスの状況を把握しやすい様子だった。

アンケートの結果をもとに、２学期にクラスのめざす具体的な姿について話合いを行った。司会班が議題を設定する場面では、クラスの良さや課題がグラフで明確にわかるため、「話を聴く」「あいさつをそろえる」「時間を守る」ことについて話合いたいと考えが一致し、スムーズに議題設定がされた。学級会では、友だちの考えを画面で共有することができるため、議題が焦点化され、解決方法を考える時間を十分にとることができた。「話を聴く」ために、話している人に体を向けて聴く、先生に頼るのではなく自分たちで声をかけて話を聴けるようにしたいなど、具体的な提案が多く出された。また、発言が苦手な児童もフォームのアンケートに入力することで自分の考えを伝えることができ、意見を取り上げてもらうことができよい表情だった。

（３）成果と課題

このように、フォームを活用することで、子ども達一人ひとりの意見がわかりやすく、瞬時に集約され共有することができる。また、発言が苦手な児童も思いを伝えることができる良さがあり、考えを深められる集団づくりに有効であると思う。今後も、ＩＣＴ機器を活用した話合いを実践していきたい。

事例５

『ジャムボードを使って話合いに挑戦しよう～操作方法や利点～』

上田市立第四中学校　島田俊哉

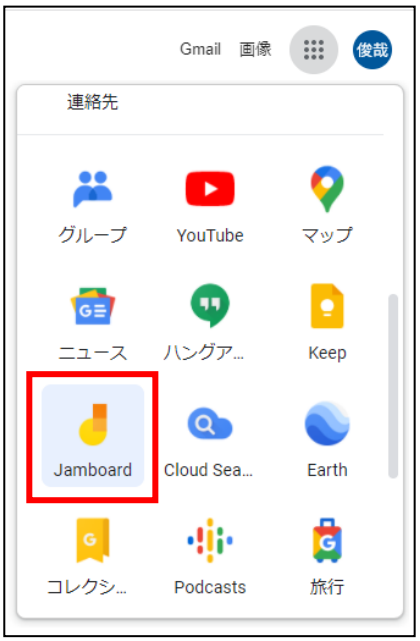
ジャムボードについて

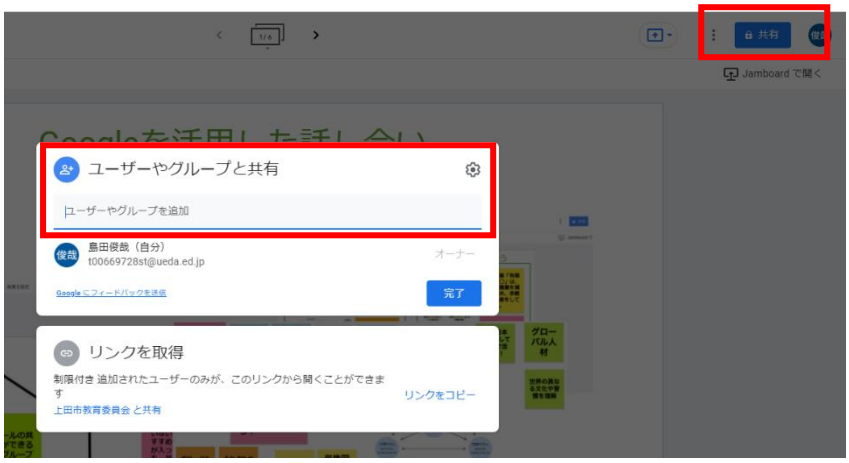
ずばり…遠隔でも編集できる電子ホワイトボード的なもの
あるいは、簡易的なパワーポイント

ジャムボードで主にできること

- 手書き(マウス)による素描
- 数色の付箋(書き込み、サイズ変更可)
- 画像の挿入
- 図形の挿入(円・四角・三角・矢印)
- テキストボックス

…以上のことをアクセスしている人と同時に行える





Jamboard を使用する場合は、一覧より Jamboard を選択し、画面右下の「新しい Jam」を選択。その後、画面右上の「共有」を選択し、児童生徒のアカウントを貼り付けて「完了」を選択すると、対象の児童生徒間で Jamboard が使用可能になります。

ジャムボードの利点

- アクセスしている人と同時に、編集共有できる（保存更新も自動で行われる）
- 作成したボードは、pdfを含めた電子保存が可能
- 仕様がシンプルなため、直感的に操作できる（左のメニューバーを活用）
- 背景を活用することで、思考ツール的活用が可能

ジャムボードの欠点

- ファイルをクラス内で共有している関係上、ボートの行き来、編集が自由に行えてしまう。（ただし、教師側からは誰がどんな操作をしているかを見ることはできる。グループごとに新規のボードを割り当てることもできるが、毎回の設定は面倒。）
- (上記も含め)場面によっては実物のボードを使う方が簡単な時もある。
- 複雑な機能はないため、デザインとして凝ったものは作りにくい。

ジャムボードで話し合いに挑戦してみましょう！

（午後の研修ではこんなことを予定していました）

＜例＞

黄色の付箋は活用できそうな機能

ジャムボード → 教育課程の研修会の場面で、各自がどんな活用をしているのか共有すること

緑色の付箋はその機能を「どんな場面で」「どんなこと」に活用できそうか

- 時間は10分間
- できるだけ沢山挙げてみましょう
- 完成したグループは最終シートのコーナーにも付箋で書き込みを(主事の先生がお答えくださるかも…！)

作成した Jamboard は画像ファイルとして保存することも可能です。

事例６

『休み時間に iPad を使うためにはどんな決まりが必要か考えよう

～ジャムボードを使って意見をまとめよう～』

東部中学校　小林友之

（１）はじめに

教育課程の授業に向けて本校では、合意形成の過程で①生徒の必要感に迫る課題の設定，②どの教科でも同様のグループ活動を行うという２点について提案し、その上で ICT 機能を利用した授業を考案した。授業の構成については、東信教育事務所学校教育課宮崎桂子先生に本校へ何度も足を運んでいただき、指導していただきながら構築した。

（２）授業の簡単な内容

GIGA スクール構想により、１人１端末が与えられることとなったが、本校では明確なルールが定められていないことから休み時間には使用できないなどの多くの制約がある。そこで、その制約を緩和していくためのルール作りが、生徒にとっての必要感に迫る課題として設定した。本時では、この課題に対してジャムボードを利用したグループ活動で合意形成を図り、学級活動の充実を狙った。

（３）成果と課題

本時の中で、ジャムボードを利用したことによって、司会者の 2 人がすべての班のジャムボードを見ながら司会計画を立てられた。また、授業の中ではジャムボードで記入した内容を同じ班の意見として別の生徒が発言することができたため、発言できない生徒が自分の意見を言ってもらって嬉しいと感じ、話し合いに参加することができた感覚を持つことができた。

反面、端末の入力に集中してしまい、実際に話し合う中では停滞してしまう場面も見られた。タイピングの能力の違いや、文字での話し合いで完結してしまうことが理由として挙げられる。ICT 機能を利用しながら話し合いを盛り上げる手立てが必要と考えられる。

５　研究のまとめと課題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、本年度導入された一人一台のＩＣＴ機器を活用した話合い活動のあり方について研究を進めてきた。各委員の実践事例を発表し、互いに学び合うことで、日々の授業に結びつく研究となった。ＩＣＴ機器の活用により、より多くの子どもの思いや考えを生かし、自己有用感の高まる集団育成につながると考えを深めることができた。今後も、さまざまなＩＣＴの活用方法を学び、より多くの場面で子ども一人ひとりの考えを生かし、考えを深められる集団の育成ができるよう研究していきたい。